



学校だより 1月号

文京区立第一中学校 令和5年1月23日(月)

世界最古の平和条約

校長 田島佳子

冬季休業中のことだったと思います。テレビを見ていたら、小学生がエジプトを旅している映像に目が止まりました。その番組は自分の興味あることを探究して大人顔負けの博士のような知識をもっている小学生にスポットを当てたものです。前にも見たことはあったのですが、エジプトで有名な博士から招待を受けて今回のエジプト往きに繋がったというエピソードや念願がかない初エジプトに感極まる娘とご両親の様子に心が惹かれました。

子供の頃に読んだ絵本がきっかけでエジプトが好きになったと言っていました。エジプト考古学界の重鎮や学芸員との交流、普段、一般では見ることのできないスフィンクスの裏側や博物館のバックヤードを見られたことはこれからの大きな財産になることでしょう。でもなぜたくさんの大人が小学校6年生の日本の女の子のために動いてくれたのでしょうか。確かにミイラの作り方を勉強して魚のミイラを作ったりエジプトの女王のような服やアクセサリを工作したりしている姿からエジプトが大好きというのは伝わってきます。でもエジプト好きは他にもたくさんいます。どうしても見たいものがあるから予定にはないけど時間ができたから行きたいと言って訪れた場所での彼女の発言を聞いて周りの大人を動かした理由が少しわかりました。

カルナック神殿には、世界最古の平和条約が刻まれている場所があります。前1269年頃にカデシュの戦いの後にエジプトのラメセス2世とヒッタイトの王とが結んだ条約は最初の平和同盟条約と言われています。その内容に、互いに領土を侵害しないことと記されています。はるかに遠い昔から存在している平和条約。すべての国の人々が平和に暮らすために必要で大事な約束事。なぜそれを守れないのか。古代のことを知りたいだけでなく昔のことを知って今の課題に役立てたいというような話を古代エジプトの遺跡の中で真剣に話している女の子は少女には見えませんでした。私は「あっ、もしかしたら、大人になったら何か人のためになることをしてくれるかもしれない。」と思ったのです。エジプトで彼女に接した大人も何かを感じたのではないのでしょうか。これからの未来を託せると。そして「力をあわせればきっと良い解決策が生まれる。戦うより力をあわせた方がよい」という内容のことも言っていました。互いが自分の正当性ばかりを主張したら、いつまでも平行線です。そんなことはわかっているはずなのにいつまでも次の1歩を踏み出せない。何が一番大事かを考えればわかることです。どこの国かではなく、すべての国に住む人が幸せなのが一番なのです。協力とは力をあわせること。力を競ったり、力で相手をねじ伏せたりするものではないのです。

はるか遠い昔に、平和条約は結ばれていたのです。

先人たちの知恵と思いを忘れてはなりません。

今に生かすのです。



見返りうさぎ

2023年は十二支ではうさぎ年となります。京都の宇治神社と宇治上神社には「見返りうさぎ」の話が残っています。平等院の南門をでて宇治川にかかる朱色の橋を渡るとすぐに鳥居が見えてきます。その先に神社があります。むかし神様が道に迷われたときにどこからか、うさぎがあらわれて、道案内をしたそうです。その時にちゃんとついてきているかを確認するために時折後ろを振り返っていた、というのです。正しい道に導くうさぎとして大事に語り継がれています。

数年前にも訪ねましたが、人は誰もいなかったです。2023年はうさぎ年ということもあり、多くの人々が参拝されていました。



授業の様子

1年



2年



3年



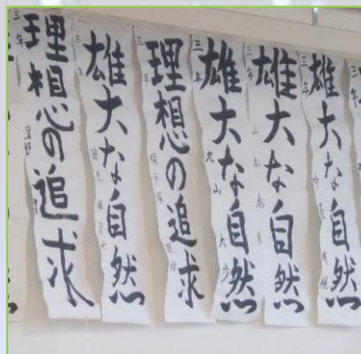
5組



園児が校庭で遊んでいます。



書初め



三味線教室

